

BLCJ(部会2)の2022年度活動方針(案)

2022.5.12

BLCJ

2022年度のBLCJ活動方針(案)

- 技術研究組合設立申請時目標(その後の修正を考慮)と2021年度末の成果を比較し、未達成の内容について促進を図る。
- 特に(試験)ライブラリの検討・整備については未達成であり、重点化するとともに、BIMベンダー、メーカー、BIMサイトへの標準ver 2.0 普及も重点化を図る
- 標準ver2.0の整理・確立は2022年度上半期とし、その後利用マニュアル作成、国交省の試行事案への対応を円滑にする。
- 共通ID、仕様書IDの活用等による業務構想の具体化に向けた検討促進
- 当初の目標にない新規のソフトウェア開発は2022年度はおこなわない。
- BLCJ成果の公開、監修表示、BLCJ準拠表示は、今後のビジネスモデルと技術開発の柔軟性を考慮し、幅広く枠組みを検討す。。
- 新組織の検討は設立の経緯を踏まえ、関係主の必要な了解を得るとともに、検討は事務局主体で実施し、主要な時点で部会長等に説明を行う。
- 4,5月に各部会の2021年度成果を全員に報告し、BLCJ内で調整すべき項目を洗い出し部会長会、技術運営委員会で調整する。
- 他の部会と調整を図る必要がある項目に関しても早めに洗い出して協議開始。

- 建築確認関連オブジェクトの試行検証等(建築、設備部会と連携)
- 公共建築工事標準仕様書(R4版)のデジタル化と連携整備
- 共通ID、仕様書IDの活用等による業務構想の具体化に向けた検討促進(特記仕様書の情報や属性情報が、施工計画書などに活用できるよう具体化を検討、標準仕様書データベースを活用した効率的な特記作成の検討)
- 標準仕様書データベースにおける情報最小単位(セル)に対してのID付与の考え方や属性情報のインポート、エクスポートの整理
- 完成引き渡し、運用・維持管理段階でのBIM活用に関する事例収集を踏まえ、運転(運用)、点検、改修及び資産管理等の目的別の整理。